

◆◆◆ 「気候変動監視レポート 2007」について

気象庁は、6月13日（金）に「気候変動監視レポート 2007」を公表しました。「気候変動監視レポート」は、世界と日本の気候変動の推移及び温室効果ガスとオゾン層の状況をまとめたもので、気象庁から、平成8年以降毎年発表されています。今月発表された「気候変動監視レポート 2007」の構成は、

- トピックス「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次評価報告書」について、
- 第1部 気候（世界及び日本の天候、台風等に関する監視結果）、
 - 第2部 海洋（海面水温や海氷、海洋汚染等に関する監視結果）、
 - 第3部 環境（二酸化炭素やエアロゾル、オゾン、黄砂等に関する監視結果）

となっています。このなかでは、2007年には、世界の年平均気温が過去120年間で6番目に高かったことや北極域の海氷の年間最小面積が過去最小となったこと等、地球温暖化が急速に進んでいることが、観測事実を中心に具体的に述べられています。

「気候変動監視レポート 2007」は、気象庁のホームページにその全文が掲載されています。